



やるき
ほんき き さ き

木佐木

神奈川県議会議員
日本共産党

2024.6.26
木佐木ただまさ news
発行：党横浜北東地区委員会
横浜市鶴見区潮田 3-147-6
TEL：045-511-1021

Profile
▶1984年山口県出身
▶鶴見区馬場在住
▶神奈川大学法学部卒
▶よこはま健康友の会会長
▶横浜東民商顧問

10年も委員会視察から共産党排除！



Youtube でその時の様子をご覧ください

水ビジネスの海外視察反対が発端

6月5日、私が今年度所属する産業労働常任委員会において、県内・県外視察の実施方法・行程などについて諮られ、私1人とそのほか12人のグループに分かれて視察を行うことが決められてしまいました。共産党の所属する文化スポーツ観光常任委員会と厚生常任委員会でも同様の取り扱いが強行されています。

こうした耳を疑うような対応は、何も今年が初めてではありません。共産党県議団が0から6人へととなった2015年から10年も続けられています。

こうした排除の発端となったのは、当時の県民企業常任委員会で水ビジネスの海外展開を進めるためにベトナムへ視察に行こうという提案に対して共産党が反対したことでした。

当時、世界では民営化した水道事業者によって、水道料金が何倍にも上がったり、採算が取れず撤退したりしており、むしろ再公営化の流れも出始めている頃でした。こうした世界情勢の中で、多額の公費を使ってまで海外視察に行くことは「県民の理解が得られない」というのが私たちの考えでした。

異なる意見が集まるのが議会なのに

これまでも「意見が異なるから会派が違い、様々な観点から意見を出し合うことが議会の多様性や民主主義にとって重要なのではないか。意見が異なるから一緒に視察に行けないというのはおかしい」と意見を述べてきましたが、排除を提案した自民党以外の他会派も姿勢は変わりませんでした。

そこで今年は、①具体的に何を指して考えからが異なるというのか②考え方が違ったとして、一緒に視察に行くことに何の不都合があるのかといったことを排除を提案した自民党に問いました。

自民党からは正面からの回答はなく、「共産党と一緒に行こうという視察に反対したのだから、そちらが謝罪・撤回するのが筋だ」という趣旨の回答一辺倒でした。

たしかに、2015年の県民企業の海外視察には反対しましたが、その他の委員会視察に反対した事実はありません。県民の理解を得られる他の視察先に変更すべきという趣旨の意見をなぜ撤回しなければならないのでしょうか？

また、一緒に視察に行くことで生じる不都合には何の言及もなく、自分たちの提案に反対したことを10年も根に持っているということ以外に理解しようがないのではないのでしょうか。

残念なのは、自民党以外の他の会派もこうしたことに疑問を感じないあるいはそれを指摘できないほどに自民党にいらまれるのをこわがっていることです。引き続き、神奈川県議会の民主化に向けて力を尽くしたいと思います。ぜひ動画をご覧ください

